

3. 3. 6 価格の比較

試みに、通貨が同一のドイツとフランスについて、価格の傾斜が大きく異なった薬効分類 114（解熱鎮痛消炎剤）と、比較的差が小さかった 116（抗パーキンソン薬）について、2カ国間の共通の品目ごとに、含量と単価（ユーロ）の関係をグラフ化したものが図 3-6から図 3-7である。

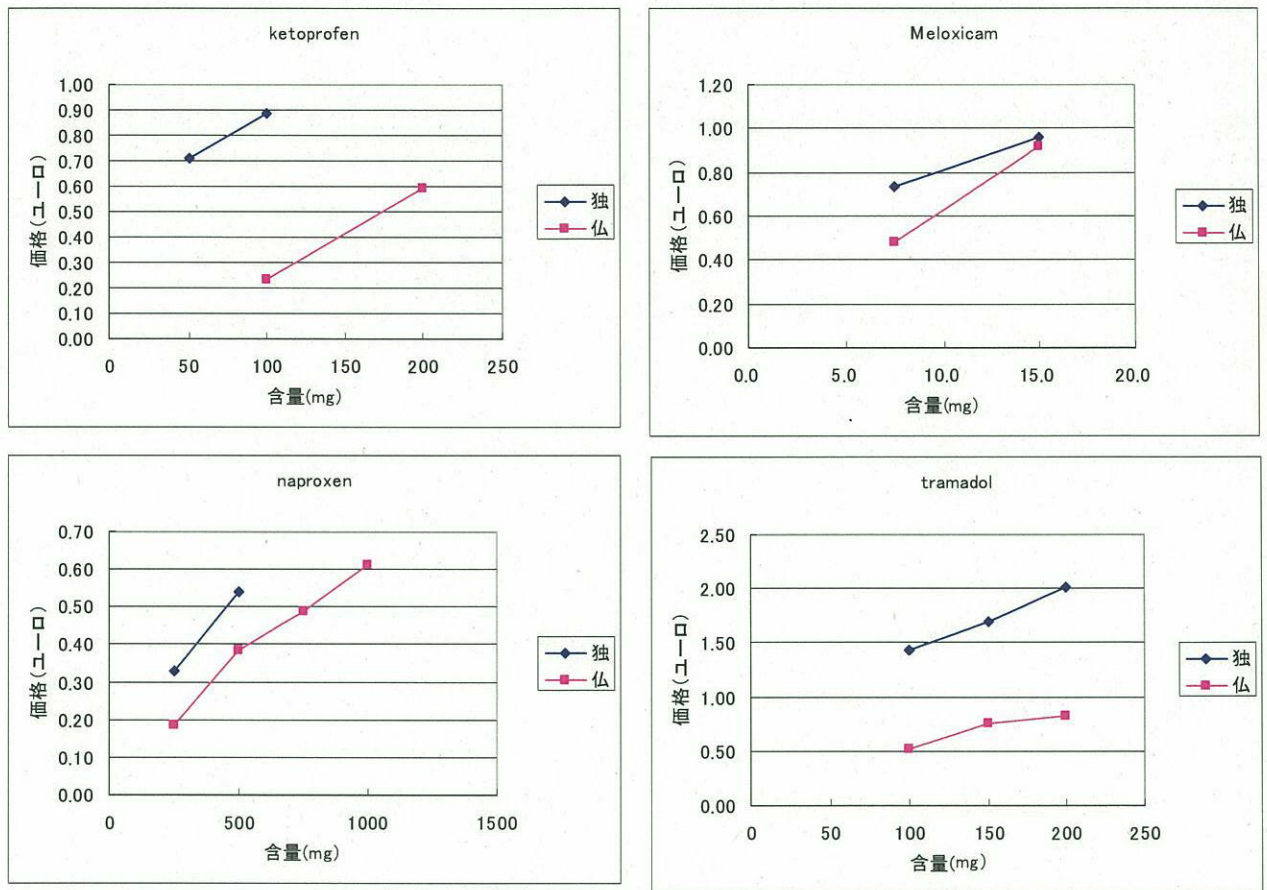


図 3-6 独仏の価格比較(114:解熱鎮痛消炎剤)

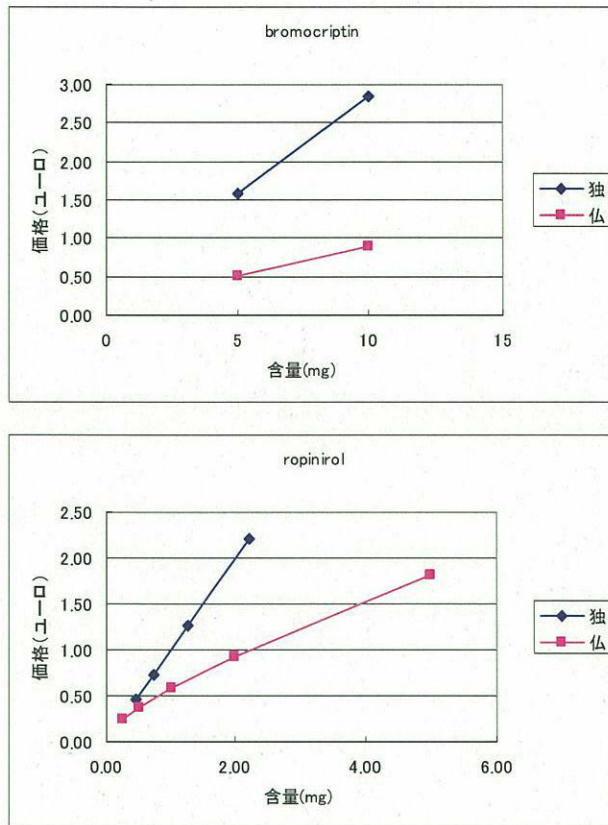


図 3-7 独仏の価格比較(119:抗パーキンソン薬)

これらの図からは、特に解熱鎮痛消炎剤において低含量の価格がドイツとフランスでは大きく異なり、ドイツにおいて大幅に高いことが分かる。ドイツにおいて全般的に価格の傾斜が小さいのは、低含量の価格が相対的に高めにになっていることが、要因となっている可能性が想定される。